

公共施設等総合管理計画および固定資産台帳整備の進捗について

現在の仕組みでは施設の老朽化・耐震化・更新の費用が単年でかかる → 一度にそのときの世代に負担がかかってくる → 公共施設をもったときから減価償却として基金を積み立てていくことで世代間の公平性が維持される

Q1 公共施設等総合管理計画の進捗

企画 公共施設等の延床面積、運営管理費、利用者数、建築構造、耐震状況などをデータ化し、コスト・建物性能・市民サービス提供の観点から現状分析を行い、少子高齢化や人口減少等に伴う将来の利用状況の変化を踏まえ、公共施設マネジメントの基本方針や、公共施設の再配置案を策定していく。(今後のスケジュールは、有識者と市の担当課で構成する専門委員会を年4回開催し、29年2月に公共施設等の再配置案を出す予定。12月～1月にパブリックコメントを実施し、市民の意見を募集する)

固定資産台帳整備の進捗

企画 H27→各課の管理台帳や公有資産台帳の内容を整理
H28→公共資産の評価額を算定しデータベース化



Q2 この2つの資産マネジメントをリンクさせ長期計画を立てないのか。

企画 直接的にリンクはしないが、公共施設の基本方針の充実に活用していく。

Q3 2025年問題が目前に迫るなか、人にもモノにも大きな経費がかかると試算されている。未来に大きなつげを残さないためにも今から準備していかないといけない。固定資産に関わる重大な施策についてもわかりやすく市民に開示説明し、市民とともに議論していきご理解とご納得をいただくことが今後の市政運営に求められることであると考えが市長の所見を伺う。

市長 道路インフラひとつとっても、当初の計画から半世紀たつて着工となるように、時代のスピードと役所のスピードが合っていない。公共資産については整理段階であるが、個別の案件について用途変更したり資産の売却も含め、まず市民の利便性を鑑み、説明をしながら議会で議決していただき再配置していく。そのためにも施設等の状況をお示しできるように調査しているところである。

山口ゆかの考え

現在の官庁会計は単年のキャッシュフローの観点しかありません。たとえば、公共施設等が老朽化による大規模改修や更新が必要になったとき、そのコストは一度にそのときの世代にかかってきます。地方公会計ではストックマネジメントの観点加わり、コストは一度にかかってくるものではなく、それまでに資産に対する減価償却をしているので、償却した金額を積み立てていくことができる。それは世代間での公平性を維持することにもなります。

この度、国の指導で公共施設等総合管理計画および固定資産台帳の整備をすることになりました。この機会に今こそ公共資産を洗いだし、今後の柏原市にとって何が必要で何が不要でないかを判断するためにも、固定資産台帳をきちんと把握することが重要です。固定資産台帳は公会計だけでなく、ストックマネジメントをする上でも必要となってきます。毎年、会計上、資産に対し減価分を償却をしていくこととなりますが、ストックマネジメントをする上で、償却した分を施設建設準備金などに積み立てていき資産を管理していきます。大規模改修や更新(建替え)が必要な時期に、一度に今の世代が払うのではなく、意思決定して施設建設および使用してきた世代が、資産価値を維持し、次の世代に引き渡すことが本来のあるべき姿です。未来の子どもにつげをまわさないために、固定資産台帳を整備・活用し、公共施設のマネジメントを行っていただきたいです。

議員も市長も1期4年です。職員は何十年と柏原市に職責を捧げていただくわけですから、パラダイムの変革を成し遂げ、20年先30年先を見据えた計画をしていただきたいのです。そして1期4年の私の任期中に、この想いを職員の皆さんに託していきたいのです。

これまで山口ゆかが提案してきたこと

✓ 新電力 (PPS) はどうなったの？

平成 26 年 6 月 議会 で新電力を導入してコストダウンを図ってはと提案

平成 28 年 10 月 より 導入

柏原市の公共施設 (26 施設) の電力供給に対し、従来契約事業所以外でも入札できるようになりました。入札契約期間は平成 28 年 10 月 1 日より 1 年間です。ちょうど 2 年前の平成 26 年 6 月 議会 で新電力 (PPS) について一般質問したときは、行政側もまだまだおおよび腰でしたが、他市の取組などを参考にして、少しでも電気代の削減につながればということで、昨年からの検討され、2 年越しで提案したことが実現したかたちとなりました。

✓ Wi-Fi はどうなったの？

平成 25 年 12 月 議会 で Wi-Fi をパスワードなし料金なしで市内全域で接続できるようにして家計のコストダウンを図ることや市外からの人の流入につながるよう提案

サイクリスト向け 2か所のみ

平成 28 年 4 月 より 導入

2 年前から提案していた【柏原フリー Wi-Fi】の進捗ですが、2 箇所 (里山公園マイルランド・リビエールホール) に Osaka free wi-fi が整備されましたが、サイクリスト向けなのでこれ以上の設置はないそうです。私は市内全域どこへいってもネット環境が整備されていることを提案しています。

IT のインフラ整備は地方再生の条件のひとつとも言えます。(昔からの企業は難しいかもしれませんが) 企業が移転したくなる環境を整備することで、新しい企業に着目してもらうことを狙いとしています。現に、素早く IT 環境を整備をした徳島県では企業が集まっています。今後は市内各所の Wi-Fi 整備はもちろんのこと、柏原の山を活用するためにも IT 環境を整備して「IT に強い柏原市」をめざしていただきたいです。

✓ ママプラスって知ってる？

平成 26 年 6 月 議会 で子育て支援で保育の専門相談員として保育コンシェルジュ制度を導入することを提案

平成 27 年 4 月 より『ママプラス』の名で始動

この名付け親は 40代パパさんです

保育コンシェルジュとは、保護者それぞれのニーズや状況に最も合った保育資源・保育サービスの情報提供をしてくれる保育専門の相談員のことをいいます。保育について悩みを抱えている新米お母さんや他市から移り住んで不安なお母さんのため、待っているだけの窓口対応にとどまらず、訪問支援でお母さんの心の支えになる子育て支援を 2 年前に提案しました。そして翌 4 月より『ママプラス』養育支援訪問事業が始まりました。

柏原市では子育て支援の充実に力を入れています。「こんにちは赤ちゃん」(乳児早期訪問) 事業で保健師や看護師が 2~3 か月の赤ちゃんを対象に家庭訪問をします。こんにちは赤ちゃんのあとママプラスが始まります。各家庭を専門の相談員が訪問してくれることは大変心強いです。

以前から日本でも取り上げられていた「ネウボラ」というフィンランドの子育て支援制度を、最近になって日本版を作ろうという動きがあります。ネウボラとは「アドバイスを受ける場所」という意味があります。妊娠から子育ての窓口を一つにしたり、拠点にプロを配置するなど、どれもその「場所」に行き、切れ目のない子育て支援のことを言います。

一方、柏原市では施設でプロが待っているだけでなく、専門員が各家庭を訪問します。ひとりで悩んで家庭で埋もれているお母さんの問題を見つけることができるかもしれません。不安で押しつぶされそうになっているお母さんがいたら、心の支えとなってくれるかもしれません。まさに待っているだけの窓口対応ではない、優しい子育て支援をすでに柏原市は先進的に取り組んでいます。安心して子どもを産み育てる環境づくりを今後も提案してまいります。子育て中のお父さんお母さん、お孫さんがおられる方、子育てについての意見をぜひ山口まで聞かせてください。

議会改革

議会、議論をわかりやすく

- 再質問回数の制限を撤廃 (今までは 2 回)
- その後、1 問 1 答方式を採用 (今までは一括答弁方式)

議会だより

- 読みやすい誌面づくり
- 政務活動費の用途公開

まだ実現できていないことを切る改革

- 議員報酬
- 議員定数

任期もラストスパート引き続き訴えてまいります

見える議会

- 議会中継
- 議会後すぐに動画配信
- Facebook から発信

ご挨拶

4 月まで会派新風かしわらの幹事長を務めさせていただいておりましたが、5 月より会派の議員が私 1 人となったため無会派議員となりました。今後も、是非々々で市民の皆さまの声を市政に届ける役目として、一意専心、残りの任期を無所属で努めてまいりますのでご支援賜りますようお願い申し上げます。

後援会会員を募集しています。ウェブサイト・電話・FAX・メールで随時受付中!

山口由華後援会

〒582-0005 柏原市法善寺 2-3-23
tel. 072-921-7430 fax. 072-926-5077

Web サイト
http://yamaguchiyuka.com
Eメール
info@yamaguchiyuka.com